



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

今知っておきたい サル痘ってなに？

国立国際医療研究センター国際医療協力局
保健医療協力課長 藤田 雅美



起源と症状

サル痘とは、1958年に「カニクイザル」で最初に発見されたため、「サル痘」と名付けられたウイルス性の感染症ですが、リス等のげっ歯類が自然宿主です。人への感染は、1970年に初めて確認された後、中央アフリカや西アフリカで散発的に流行してきました。2022年5月以降、海外渡航歴のないサル痘患者が欧米諸国等で報告され、7月には世界保健機関（WHO）がサル痘の流行が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であると宣言しました。2022年1月1日から9月5日までに、52,996例の確定例がWHOに報告されていますが、死亡例は18例にとどまっています。国内でも9月21日までに5例が報告されました。

人への感染は、感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合、患者と近くで対面し長

時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等に起こるとされています。潜伏期間は7～14日で、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。

予防と対策

感染予防には天然痘ワクチンが有効とされ、接触者に必要に応じて投与するための準備が進められています。診断は病変部位等からのPCR法による病原体の遺伝子の検出、ウイルス分離で行われます。治療は対症療法が基本で、国内で承認されている治療薬はありませんが、欧州で承認された薬の臨床試験が国内で実施されています。

これまで報告されたサル痘の症例の大部分は男性であり、これらの症例のほとんどは、ゲイ、バイセクシュアル、およびその他の男

性と性交渉する男性 MSM (Men who have Sex with other Men) の間で発生しています。エイズが欧米で広がった1980年代の初め、ゲイの病気として矮小化され、深刻な差別と偏見が感染者を苦しめている間に、HIVウイルスが世界中に広がったことを思い出させます。

私たちにできること

WHOのテドロス事務局長は、上記の「緊急事態」を宣言した際、「サル痘がMSMの人達に集中しているということは、正しい戦略を実行できれば、更なる拡大を止めることができるということです」と述べ、MSMのコミュニティと密接に協力して対策を立てることや、感染者の人権と尊厳を護る重要性を訴えました。🐱

日本と世界の母子健康手帳

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

日本生まれの母子健康手帳

日本で1948年から使われ始めた「母子手帳」は、母親と子どもの健康記録を一冊の手帳にまとめる世界で初めての試みでした。当時は、生まれた子どものうち約13人に1人が満1歳を迎える前に、栄養失調や感染症などで亡くなっていました¹⁾。妊産婦死亡率も、現在の約58倍でした²⁾。そうした状況を改善する取り組みがなされる中で、母子手帳が活用されました。



1948年の母子手帳

その後、日本の乳児死亡率と妊産婦死亡率は急激に減少しました。母子健康手帳を活用した母子の継続的な医療と保健指導が重要な役割を果たしたと考えられています。母子保健法が制定されたことに伴い、1966年に、「母子手帳」が「母子健康手帳」と改称されました。ちょうど私の生まれた年であり、母が大事にしていた手帳は、今は私の手元にあります。見るたびに、慈しみ育ててくれた母への深い感謝の気持ちを抱きます。

子育て支援も

日本の母子健康手帳の内容は、

概ね10年ごとに社会情勢の変化などに合わせて改訂されています。当初は、出産の状況や産後の母親と乳児の健康状態、乳幼児の発達平均値のグラフなど、健康の記録が中心でした。その後、子どもの成育発達過程に沿った精神や運動能力の発達や親子関係に関する具体的な質問を加えて、発育障害の早期発見に役立てるようになりました。また、産後の母親の心理状態を確認する項目も加わりました。

平成に入ってから、育児のしおりや事故の防止、乳幼児の栄養についての記述や、働く女性のための出産や育児に関する法律や制度の情報と解説が記載されるようになりました。また乳幼児虐待の防止のために、子育て支援に関する記述、父親の育児参加を促進する内容も拡充されました³⁾。

こうして日本の母子健康手帳の役割は、母と子の命を守ることから、子どもの病気や障害の早期発見、さらに子育ての支援へと発展してきました。

リトルベビーハンドブック

近年、小さく生まれた赤ちゃんや、ふたごの赤ちゃん、ダウン症の子どもなど、特別なケアを必要とする親子にむけた手帳が作られるようになってきました。なお、以前は「未熟児」と呼ばれていた赤ちゃんは、現在は「低出生体重児」（小さく生まれた赤ちゃん）、「早産児」（早く生まれた赤ちゃん）と呼ばれるようになりました。

小さく生まれた赤ちゃんとその家族のための「リトルベビーハンドブック」は、従来の母子健康手帳と併せて使う、家族が記録する手帳です。子どもの体重のグラフは0グラムからの目盛りになって

いるなど、生まれたときに1500グラム未満の赤ちゃんに合わせた内容です。「首がすわる」「寝返り」など発達の記録は、「はい、いいえ」で答えるのではなく、できた時期を書き込む形式になっています。

またこの手帳には、小さな赤ちゃんが生まれた先輩の家族からのメッセージがいくつも記載され、小さな赤ちゃんが生まれたばかりのお母さんと家族の気持ちを温かく支えてくれるようです。さらに、小さく早く生まれた赤ちゃんが罹りやすい病気や、予防接種などについての情報があり、支えてくれる医療機関や専門家、先輩のご家族が周りにいることを伝えることで、子育てをする家族の安心感につながります。



最初のリトルベビーハンドブック

2016年に東京で開催された「第10回母子手帳国際会議」で、静岡県立子ども病院新生児病棟に入院していた赤ちゃんとその親の会「ポコアポコ」の代表の小林さんにお目にかかり、当時「ポコアポコ」が作成して配布していたリトルベビーハンドブックを初めて見せていただきました。その後、この手帳を元に静岡県が「しずおかリトルベビーハンドブック」を発行し、他の自治体でも作られるようになりました。

世界に広がる母子健康手帳

日本の他に、主にアジアやアフリカの国や地域で、誰でも、どこでも、子育ての支援が受けられるように、母子健康手帳を活用する取り組みが広がっています。

今まで訪れた国で見せていただいた母子健康手帳をいくつかご紹介します。

タイは1985年から独自の母子健康手帳を使い始め、1988年までに全国に普及しました。表紙がピンク色なので、「ピンクブック」と呼ばれています。最初は12ページの小冊子でしたが、改訂を重ね、現在では全ページがカラー印刷で、イラストも多く入っており、早期に発見が必要な病気や、乳幼児の栄養などについて分かりやすく説明されています⁴⁾。



タイの母子健康手帳

インドネシアでは、1990年代に日本による母子保健の援助活動で母子健康手帳が一部の地域で試験的に導入され、2004年以降に、全国で使用されるようになりました。日本の手帳をそのまま翻訳するのではなく、それまでインドネシアで使われていた妊婦カードや乳幼児カード、栄養教育で使われていたポスターなどを手帳に編集しました。また、病院の医師や看護師、保健師に手帳への記入や使い方を研修してもらい、手帳を配布するときはお母さんやお父さんに使い方を丁寧に説明したそうです⁵⁾。



インドネシアの母子健康手帳

オランダは欧米では珍しく母子健康手帳を使っている国です。2006年に小児科医や助産師などが編集した7分冊の母子健康手帳が作られ、親になる準備、妊娠から、子どもの思春期まで、記録のページに加えて、信頼できる情報を提供しています。2012年からは、ウェブページやスマートフォンのアプリでも利用できるようになり、例えば、希望すれば、予防接種のお知らせなどを個別にメールで送付してもらうこともできます⁶⁾。



オランダの母子健康手帳

母子健康手帳に寄せる思い

母子健康手帳は、家族が持参した手帳に医療従事者が健診などの記録を書き込むだけではなく、手帳を通して、子どもの母親やその他の家族と医療従事者とのコミュニケーションを進める手助けになることが期待されています。

また、母子健康手帳には、家族

や子育てに関する考え方の変化も反映されてきました。近年、自治体によっては、子育てをするのは母親だけではないという考えから「親子健康手帳」と改称したり、スマートフォンのアプリと紙の手帳を連携させる仕組みを作ったり、育児の環境や方法の変化を紹介する「祖父母手帳」を配布して孫を育てる祖父母を応援する取り組みを始めたりしています。

今年の8月下旬に「第13回母子健康手帳国際会議」がオンラインで開催されました。様々な国や地域からの参加者から、母子健康手帳を活用した母子保健の課題への取り組みについての報告がありました。会議の最後には、多様な文化に配慮し、特別な支援を必要とする母子を助け、誰もが妊娠、出産から成長期まで切れ目なく医療や保健サービスを受けられる仕組み作りに母子健康手帳を役立てようという呼びかけがありました。

これからもこの手帳が母子の命と健康を守り、多くの家族を支えていく役割を担っていくことを願っています。

参考文献

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2022年度版 表5-2 性別乳児死亡数、新生児死亡数、率および性別：1900～2020年」
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2022年度版 表5-28 妊産婦死亡数および率：1899～2020年」
- 3) 厚生労働省子ども家庭局「母子健康手帳に関する検討会」平成23年度第1回資料
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001oujo.html>
- 4) Isaranurug, Sirikul, (2009) "Maternal and Child Health Handbook in Thailand", *Journal of International Health*, Vol.24, No.2, pp.61-66.
- 5) 中村安秀『海をわたった母子手帳』（旬報社、2021年）
- 6) オランダ母子健康手帳ウェブサイト GroeiGids <https://www.groeingids.nl/>

令和4年度地区別結核予防婦人団体幹部研修会（2地区） 開催地よりご報告

北海道地区

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子



令和4年6月10日（金）に第54回北海道家族の健康をまもる講習会が札幌エールプラザで開催

されました。コロナ対策のため参加人数を60名に制限しての実施となりました。

研修内容は、以下充実した内容でした。

- ①北海道対がん協会、北海道結核予防会の事業説明。
- ②「地域における健康づくりの取組」をテーマにパネルディスカッションと意見交換を実施。パネリストは札幌市北区連合町内会女性部と旭川市、札幌市の食生活改善推進員。がん検診受診率の向上対策、朝食をとること、「野菜を食べようキャンペーン」の実施について発言がありました。
- ③演題「目からウロコ（？）の新型コロナウイルス」について、講師は北海道結核予防会専務理事中島保明氏の講演を拝聴しました。

終了後のアンケート結果によると、参加者年令70歳以上の方70%、初めて参加の方50%、講習内容満足80%、開催場所満足80%の結果から、高齢者対策、交通アクセス等広い北海道でのイベント開催について主催者として今後の対応に大変参考になりました。🐱



東海北陸地区

富山県結核予防婦人会
会長 岩田 繁子



令和4年7月20日（水）～21日（木）にホテルグランテラス富山（富山市）において、60名

の参加を得て、令和4年度（第15回）東海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会が開催されました。

結核研究所名誉所長の森亨先生に「子供の結核ゼロから結核終息へ-BCG接種-」の講演、結核予防会国際部付部長の小野崎郁史先生から「国際協力と婦人会活動」の講演をしていただきました。

結核は罹患しても即発病するわけではない厄介なもの。日本の結核の減り方はゆっくりで、BCG接種の中止は今後検討することなどを学びました。また、世界の結

核をなくさなければ日本の結核はなくならないため、国際協力は今後も継続することを再認識しました。

続いて、富山県衛生研究所長の 大石和徳先生に「進化する新型コロナウイルス感染症：富山衛研の取り組み」と題して、コロナの現状や、若い人への感染拡大とワクチン接種の有用性をわかりやすく解説していただきました。

その後、菅コースター制作講習会がありました。高岡市福岡地区の菅っこメイトの指導により、素敵なコースターが完成しました。

アトラクションでは、越中八尾おわら保存会東新町支部によるおわら風の盆を皆さんに楽しんでいただきました。🐱



結核予防婦人会秋田県連合会
会長 小玉喜久子



8月1日(月) 全国一斉複十字シール運動の開始に合わせ、結核予防会秋田県支部役員、結核

予防婦人会秋田県連合会正副会長の計8名で佐竹知事を表敬訪問しました。複十字シール運動の趣

旨を説明し、運動を通して、結核についてより多くの方に知っていただき、予防と治療の大切さを伝えるため、各市町村や保健所、関係機関に一層の普及を図っていただきたいと要望しました。最後に全国大会の大会決議と大会宣言文、広報資材をお手渡しし、運動への協力をお願いしました。

知事からは「結核は、昔は大変な病気だった。皆さまには新型コロナウイルスの流行でなかなか活

動ができない中、複十字シール運動も今まで通り頑張っていて、結核予防活動につとめてほしい」と励ましのお言葉をいただき、有意義な訪問となりました。

表敬訪問の様子は複数のテレビ局と新聞で報道されました。

新登録結核患者数、罹患率の減少を励みに、今後も結核予防活動に取り組みたいと気持ちを新たにしました。🐾



佐竹知事（左）から励ましの言葉をいただきました



最後はみんなで記念撮影（筆者は右から3人目）

栃木県地域婦人連絡協議会
会長 柳田 京子



去る7月19日、3年ぶりの知事表敬訪問を致しました。結核予防会栃木県支部関係3名、婦人

会4名、7名での訪問でした。

コロナ予防のため、いつもでしたら知事室で行うところ、少し広めの会議室を用意して下さいました。

最初に福田富一栃木県知事に結核予防会栃木県支部の渡邊慶理事長から結核感染症の罹患、予防の現状についての説明がありました。

日本では結核を発病する人は年間で1万人以上、その約4割が80歳以上の高齢者です。結核は過去の病気ではありません。定期的な健康診断を積極的に受けて頂くことが予防に繋がります。

結核を制圧するためには多くの課題があります。婦人会としましては、コロナ禍の中、結核予防思

想の普及啓発及び募金活動を行っています。昨年はコロナ禍にも関わらず多くの方々のご協力を得ることができたこと、又複十字シール運動のさらなる普及に取り組み、結核をなくすための活動を続けていきたい所存であることを福田知事にお伝えしました。

福田知事からは、「県も皆さんと連携して結核対策に取り組みます。シールぼうやのように結核菌をやっつけてください」とのお言葉をいただきました。🐾



福田知事（右から4人目）を囲んで記念撮影（筆者は右から5人目）

三重県結核予防女性団体連絡協議会
会長 梶田 淑子



今年の知事表敬訪問は8月1日に実施いたしました。コロナ感染拡大の最中のことではありましたが、三重県健康管理事業セ

ンター水谷仁理事長の計らいで有意義な時間を過ごせました。

ご対応頂いた三重県副知事の服部浩様と結核感染の状況や複十字シール運動の啓発についてなど、今、まだ感染ゼロではない結核の怖さなどを話し合い、全国結核予防婦人会の役割の重要性を再認識しました。

先日7月20日には令和4年度東

海北陸地区結核予防婦人団体幹部研修会に出席しましたが、あらためて所要時間6時間もかけてでも行く必要性を感じました。

全国結核予防婦人会は、全国ネットで情報の共有をし、結核感染予防啓発のために、各県市町村に広める啓発事業に務める努力をしたいと思いました。🐱



知事表敬訪問時の記念撮影（筆者は右から3番目）



東海北陸地区の研修会に参加して

岡山県結核予防婦人会
・岡山県愛育委員連合会
会長 岡崎 文代



8月1日からの複十字シール運動を前に、7月25日、岡山県健康づくり財団理事長（結核予防会岡山県支部）松山正春理事長、渡邊知美専務理事、マスコットキャラクターの「シールぼうや」

とともに伊原木隆太知事を表敬訪問いたしました。

第73回結核予防全国大会決議文、宣言書を添えて新しい結核対策の推進を陳情するとともに、「シールぼうや」のぬいぐるみと複十字シール封筒のセットを贈呈し、複十字シール運動への協力をお願いしました。知事からは、私たちの活動を評価していただくとともに、激励の言葉をいただきました。

当会では、9月の結核予防週間を中心に街頭キャンペーン活動や健診の受診勧奨、複十字シール運動を長年実施してまいりました。

コロナ禍で、従来の活動が難しい時もありましたが、今後も、工夫しながら、複十字シール運動及び結核予防に関する普及啓発活動に取り組んでいこうとの気持ちを新たにいたしました。🐱



伊原木知事（右から2人目）に表敬



シールぼうやと一緒に記念撮影（筆者は右から3人目）

大分県結核予防婦人会
会長 安部志津子



複十字シール運動の開始に先だち7月26日、結核予防大分県支部の方々と私共結核予防婦人会と総勢6名で、広瀬勝貞知事を表敬訪問いたしました。

私からまず、複十字シール運動の趣旨、そして今年で71年目を迎

えている事、大分県の現状として高齢者が8割を占めている特徴があること、次に昨年度の募金の状況を説明し、更にこの運動を広めていきたいので本年度もご支援、ご協力をお願いしたい旨の依頼文書を手渡しました。知事からは、「あなた方のこれまでの活動が、結核予防に繋がっていることに敬意を表します。私達も出来る限りの協力をしたいと思います」と、あたたかい激励とねぎらいのお言葉をいただき、有り難く心強い思

いでございました。最後に記念撮影をし、短い時間でありましたが、有意義な訪問となりました。大分県は新規登録患者数は年々減少していますが、これからも啓発に力を入れ、ゼロをめざしていきたいと思ひます。コロナ禍の現状ではありますが、婦人会員一人ひとりが意識をもって複十字シール運動を通じて啓発の輪を広げていきたいと、決意を新たにしたところでございます。🐱



広瀬知事（中央）と記念撮影



和やかな雰囲気での表敬でした（筆者は左から2人目）

寄付型自動販売機を設置してくださいました

特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会

公益社団法人岩手県予防医学協会様が、「自動販売機の売り上げ金を岩手県地域婦人団体協議会(以下県婦協)の活動費にしてください」と、職員通用口に寄付型自動販売機を設置してくださいました。設置当日は、及川公子会長が駆けつけ、記念写真を撮りました(写真1)。

購入した方に複十字シール運動への協力のお礼という形でメッセージ(写真2)を添えました。これを受けて県婦協では、気を引き締めて複十字シール運動の普及啓発活動をします。🐱



写真1 設置当日及川公子会長と記念撮影

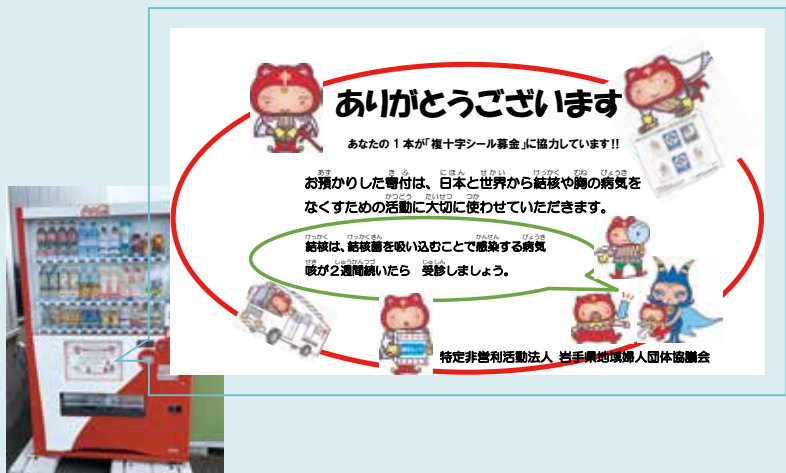


写真2 県婦協独自作成のメッセージ

新会長就任ご挨拶

青森県地域婦人団体連合会
会長 外崎 れい子



令和4年5月30日より青森県結核予防婦人会の会長に就任いたしました外崎れい子です。会長としての重責に身の引き締まる思いです。

新型コロナウイルス感染症の言葉を初めて聞いてから今年で3年目、活動や行動の制限が緩和された7月26日、毎年8月1日の複十字シール運動の開始に合わせて行っている知事表敬訪問、(平成17年から)会長としての初仕事(活動)又、結核予防週間を前にした9月10日11日、地元の放送局が主催するイベント会場にて、複十字シール運動 街頭募金活動とチラシ等を配布しての啓発運動を終えほっとしていると言うのが本音です。

かつて国民病と言われた結核も厚生労働省の発表によると2021年に国内で結核と診断された患者数が10万人当たり9.2人に減少し1950年代に調査が始まってから初めて10人未満となり世界保健機関が定める「低まん延国」となったとの事、しかしながら今でも1日に35人新たな患者が発生し5人が命を落としている日本の重大な感染症であると認識し、結核の正しい知識を理解しこれまでの歩みを止めることなく結核の終息を願い活動を続けていきたいと思ひます。🐱

特定非営利活動法人
岩手県地域婦人団体協議会
会長 及川 公子



この度、岩手県婦協会長に再び就任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

近年続くウイルスの流行は危機感を増しています。あらゆる活動が停滞を余儀なくされ、併せて物価の高騰、エネルギーなど生活の不安も抱えています。いずれこの事態は終息すると思ひますが、その時に私たちはこの危機や生活不安から何を学び、何を糧とできたかが問われると思ひます。

今年6月、東日本大震災津波で多大な被害を受けた沿岸部において、岩手県地域婦人大会を11年ぶりに開催できました。沿岸部の女性団体が被災者でありながら、婦人会組織を活かし活動を展開されてきたこと、地域に根差した婦人会組織を次世代につなげている素晴らしい実践を学び共有することができた大会でした。

私たち婦人会は、地域を豊かにし、人々が幸せになるために、幅広い社会貢献をする組織であり、私益と公益の調和をとることのできる会員の集まりだと思ひます。今こそものごとを多角的、包括的に見る事が求められています。感染症に対する差別と偏見をなくするため、地域での予防教育を推進すること。感染症を正しく怖がることに取り組んでいきます。🐱

宮婦連健康を守る母の会
(宮城県地域婦人団体連絡協議会)
会長 鈴木 玲子



今年度より宮城県地域婦人団体連絡協議会の会長に就任いたしました鈴木玲子と申します。

今年度より宮城県地域婦人団体連絡協議会の会長に就任いたしました鈴木玲子と申します。よろしくお願ひいたします。
宮婦連では、コロナ感染症により休止してしまひました大会(第66回宮婦連大会並びに第49回宮婦連健康と医療を考える中央集会)を去る9月7日、3年ぶりに開催することができました。

午前の部は、結核予防会の尾身茂理事長のご講演をオンラインでお聞きすることができました。大変貴重な研修をさせていただきました。コロナにより制約された日々から、コロナに屈せず活動に励もうと思へた意義深き講演でした。午後からは全女連の櫻井よう子会長に「婦人会活動を軸に 自分も 他の人も 地域も豊かにするために」というテーマで講演をいただきました。社会情勢から環境問題等山積している現状の中で、講演内容を確りと咀嚼し、地域社会にも会員一人一人にも意義深き活動ができるよう務めてまいります。🐱

山梨県愛育連合会
会長 立川 信子



山梨県愛育連合会会長の立川信子です。私は平成29年2月、第21回結核予防関係婦人団体中央講習会に参加し、結核について多くを学ばせて頂きました。特に



タバコ煙（副流煙は主流煙より有害）を主とする有害物質を長期に吸収することで生じる肺の炎症性疾患のお話には驚きました。子どもを喫煙の害から守るために、当会では喫煙の害の学習、結核検診の呼びかけ、また結核予防週間には街頭キャンペーンでの呼びかけやチラシの配布等を行い、結核予防の推進や啓発活動に努めています。結核は先人達の心血注いだ献身のおかげで、もはや国民病ではなくなりましたが、今でも世界人口の25%が結核に感染しているとのこと。今回世界的に広がった新型コロナ感染症を契機に、結核をはじめ感染症対策の重要性を再認識し、生まれ育った地域で健康で安心して暮らせるよう、感染

症根絶に取り組んで参りたいと考えています。ご指導よろしく願い致します。🐾

京都府結核予防婦人会
会長 安井 美佐子



今年度より京都府連合婦人会の会長に就任致しました安井美佐子です。どうぞ宜しくお願い

致します。

私達の子供の頃には本当に沢山の結核患者さんが居られたと記憶しています。結核の予防のために陰性か陽性かが子供にとって一大事件のように陽性になったことを喜びました。陰性だとBCGの

注射を打たなければならず、その注射が腫れたり崩れたり子供にとっては苦痛でしかありませんでした。しかし、そのお陰で子供が結核になることは極端に減り、いつか身近に聞くことはなくなりましたが、ある日知り合いの高齢の方が老人性結核にかかりました。聞けば、今でも高齢になって結核にかかると聞きます。

世界には今の時代でも貧困などで、十分に栄養が採れないために結核にかかる方も多いと学びました。私たちに出来ること、複十字シール運動に加え、予防医学の学びにも力を入れて、健康維持と、結核にかかる発展途上国などに支援が出来ればと思います。🐾

続報 第26回結核予防関係婦人団体中央講習会視聴者報告(敬称略)

前回（令和4年7月発行の135号6ページ）に掲載できなかった令和4年3月1日に参加された方のメッセージをご紹介します。

令和5年2月28日～3月1日開催予定の第27回の標記講習会は、3年前に実施していた対面方式に戻したいと準備を進めております。ぜひ参加をご検討ください。

<北海道 林奈穂美>

オンライン開催で、北海道結核予防会会議室での視聴でした。「コロナ対策のこれから、婦人会に期待すること」は高齢者の重症化等に関心を持ち「結核とコロナ」についても興味深く、映像機器トラブルもなく、はっきりと届いた講演で勉強になりました。🐾

<山形県 渡辺孝子>

令和4年3月1日、標記講習会をWEBで拝聴させていただきました。4名の先生方の貴重な講演を拝聴して、結核に対する自分の知識のなさを痛感いたしました。

そして、婦人団体の一員として、歴史あるこの活動を減退させてはいけないと思いました。また、結

核で苦しむ人を一人でも減らす活動に、これからも微力ですが携わっていきたいと思いました。この度は誠にありがとうございました。🐾

<高知県 芝瑞穂>

結核が「過去の病気」ではなく、現在進行形のものであるということに驚きました。感染症との闘いは、世界中で同時に進む必要があると思います。医療や食料など充分ではない地域には支援が必要であり、どの国の人も等しく健診や治療を受けることが出来る環境をつくるのが大切だと感じました。

複十字シール募金運動は、そのための活動の一翼を担っていると思います。🐾

第26回結核予防関係婦人団体中央講習会 (オンラインプログラム)

講演①

「コロナ対策のこれから
～婦人会活動に期待すること～」
独立行政法人地域医療機能推進機構
理事長 尾身茂氏

講演②

「婦人会活動と国際協力
あゆみとこれから」
結核予防会 国際部付部長
小野崎郁史氏

講演③

「結核の基礎知識とBCG接種
コロナと結核をまとめて終息に」
結核研究所 名誉所長 森亨氏

講演④

「婦人会活動の過去・現在・未来」
東都大学沼津ヒューマンケア学部
看護学科教授 松田正己氏

結核予防会理事長就任のご挨拶

公益財団法人結核予防会
理事長 尾身 茂



この度、公益財団法人結核予防会の理事長を拝命いたしました。日本のみならず、アジア・

世界の結核対策と研究において中心的な役割を担ってきた結核予防会の一員となった喜びで、就任からの数カ月を過ごしてまいりました。

長い間感染症に関わってきた者として、感謝の気持ちを忘れず、重責を日々痛感しております。

結核予防会は、昭和14（1939）年に創立してから、今日まで、結

核に特化して活動を進めてまいりました。また、全国各地で複十字シール運動を展開し、結核予防の普及啓発に婦人会の皆さまとともに歩んでまいりました。

そして何より創立した当時から、秩父宮妃殿下を、平成6（1994）年以降は秋篠宮皇嗣妃殿下を総裁として仰ぎ、結核予防会の活動を支えていただきました。折に触れ、お励ましのことばを賜ることは、この上ない喜びであり、また皆さんと分かち合えることをうれしく思います。

さて、これからの結核予防会をどのように発展させていくかを考えていくうえで、どうしても取り組まなければならない課題があります。

その一つは、コロナをはじめとする感染症への一般の関心は大きくなったものの、結核への関心が必ずしも高くなく、結核研究も十分ではないと感じています。さらに、この新しい局面に合わせて、感染症対策の強化に向けて、結核予防会は今まで以上に積極的に関与していくことが求められます。

そして、婦人会の皆さまには、これまでの経験や実績を活かしながら、複十字シール運動をはじめ、予防会の活動を側面から応援していただき、また地域の皆さまに、その活動を広めていただきたいと思います。

引き続きお力を貸していただきたくよろしくお願い申し上げます。🍷

2021年度複十字シール募金結果報告

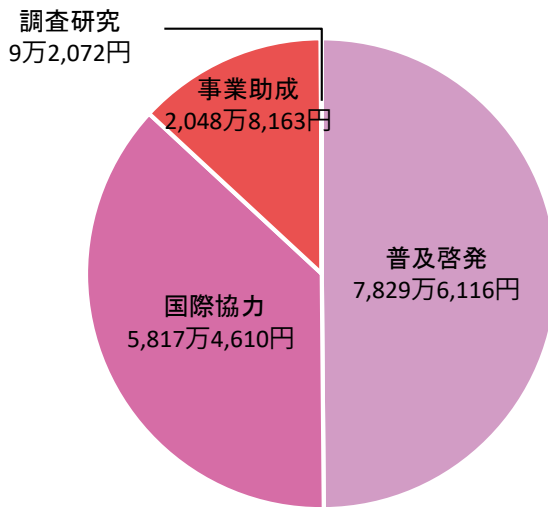
2021年度に複十字シール運動を通して、結核予防会の支部・本部に寄せられた募金収入は1億6,949万6,607円でした。

シール、封筒、広報資材等の製作費、運搬費等の諸経費を除いた事業費1億5,705万961円の用途は図1の通りです。結核予防の広報や教育資材の作成および研修会や結核予防全国大会の開催等、「普及啓発」に7,829万6,116円、アジア・アフリカの開発途上国の結核対策等の「国際協力」に5,817万4,610円、全国の結核予防団体等の活動支援「事業助成」に2,048万8,163円、結核の「調査研究」に9万2,072円を使わせていただきました。

2021年度も新型コロナウイルス感染症の終息が見込めず、厳しい状況の中でしたが、婦人会

の皆様には複十字シール運動にこれまでと変わらず、積極的なご支援、ご協力をいただきましたこと

を、心より御礼申し上げます。🍷
(事業部募金推進課)



募金収入 1億6,949万6,607円
事業費 1億5,705万961円 (諸経費を除く)

図1 2021年度 募金の用途内訳

ジェンダーギャップ指数を見て

埼玉医科大学社会医学
教授 亀井美登里



はじめに

9月8日に96歳で英国エリザベス女王は崩御された。女王の在任期間は英国史上最長、昨年から歩行の際に杖を使用されるようになったものの国家元首としての職責を最後まで果たされた。そのお姿は凛として見事だった。

ジェンダーギャップ指数

この夏、世界経済フォーラム（WEF）よりジェンダーギャップ指数が発表された。この指数は、各国における男女格差を数値化したものである。「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示している。日本の総合スコアは0.650、順位は146か国中116位（昨年のスコア0.656、156か国中120位）だった。昨年と比べて、スコア、順位ともに、ほぼ横ばいで、主要7か国（G7）中最下位、アジア諸国の中でもフィリピン19位、韓国99位、中国102位等より低い結果であった。

4分野を分野ごとに見ると、特に「経済」および「政治」の順位が低く、「経済」0.564で121位、「政治」0.061で139位だった。一方、「教育」1.00で1位（同率21か国）、「健康」0.973で63位だった。分野で偏りがあることが分かる。

WEFは、新型コロナウイルス感染症感染拡大で世界的に女性は男性に比べて失業等の影響を大き

く受けて、ジェンダー平等の達成が「1世代分遅れた」としている。

「カーブス」に集まる人々

敬老の日にちなんで日本政府から発表されたデータによれば、65歳以上は3640万人（高齢化率29.1%）で過去最高。特に女性は2057万人で女性人口の32.0%、実に女性3人に1人が高齢者という割合となった。

たまたま通りすがりに沢山の人が整列して集まっている様子を目にした。この数年、新型コロナウイルス感染症感染予防が徹底される風潮下、あまり見かけない光景だったので、不思議に思った。よく見ると女性ばかり、それもシニア世代が多そう……なんと「カーブス」（女性専用のフィットネスクラブ）の開店を待ちわびている人々の列だったのだ。コロナ禍以前の日常を取り戻そうとしている社会の風を受けて、心身のメンテナンスに勤しむ女性たちの後ろ姿に潜在的な力強いエネルギーを感じ、思わず胸が熱くなった。

ヨコグシスト

縦割り社会に横串を通す人をヨコグシストといい、商標登録もされている。伊能美和子（いよくみわこ）さんこそその人である。もともとは企業内起業家（イントラプレナー）として活躍、その後、一般の起業家（アントレプレナー）として10以上の事業やサービスを

立ち上げている。市場創生から業界全体のDX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変えること）までをターゲットとしつつ、触媒としての役割を果たしながら社会の中に新たな価値を日夜創出されている。

第4次産業革命

私たちは第4次産業革命の真っ只中にある。AI、IoT等ビッグデータを活用した技術革新が急激に進み、社会全体が突き動かされている。この大変革にはテクノロジーのみならず、人材スキルの変革が不可欠である。

ジェンダーギャップを埋めることはこの大波に上手く乗っていく秘策のキーワードの一つだと思う。元国連難民高等弁務官緒方貞子氏は「熱い心と冷たい頭を持って。最後は理論ではない。一瞬のカンです。」との名言を残している。世界一高い教育を受け、健康を保ち続ける努力を惜しまない女性たちが、忍耐と哲学をかければ、自ずと物事は動いていくのではないだろうか。

凛として

30年ぶりの円安に日本の国力が懸念されている。が、本来の力を大いに発揮して社会の荒波の先頭を突き進む日本の女性たちのたくましい姿が思い浮かぶ。かの女王のように新しい時代の舵取りをしていく姿、凛とした姿が。🍷

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ



TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの Quality of Lifeの向上が 私たちの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社
〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD011-TB-2103-1